

農業試験場ニュース 特別号 No.400



農試ニュース400号発刊にあたって

農業試験場長 植木与四郎

農業試験場の研究推進につきましては、日頃から御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「農試ニュース」は、昭和62年6月に本誌の前身である「農業試験場月報」として第1号が発刊されたのが始まりで、このたび400号の節目を迎えました。発刊の目的は、「必要な情報は待つだけでなく積極的に情報を提供し、農試の現状を理解していただくとともに情報を交換する」ことでした。今日までの33年間、関係者や農業者の方々と積極的に情報交換を行い、意見等を試験研究に反映することを目指し、毎月欠かさず研究成果や農試で行う行事、研究ほ場の見どころなどを紹介してまいりました。

現在、県では「成長産業として進化する農業・栃木」を基本目標に各種施策に取り組んでいます。特に、本県農政の大きな柱として「園芸大国とちぎ」づくりを推進しているところです。半世紀に渡り生産量日本一を誇るいちごをはじめ、トマト産地の競争力強化、新たな主力品目であるならやアスパラガス等の重点的な生産拡大を図っています。また、水田農業の改革を促進するため、主食用米から加工・業務用野菜等への作付転換を始め、麦、大豆、飼料用米の生産拡大を推進しています。農業試験場においても、気候変動やスマート農業などの新たな課題へも対応しながら、稼げる農業の一助となる試験研究に今後とも取り組んでまいります。

最近の品種開発においては、いちごの「とちあいか」や「ミルキーベリー」、吟醸酒向け酒米の「夢ささら」、食用大麦「もち絹香」、あじさい「エンジェルリング」、「プリンセスリング」等が誕生しており、これら新品種が一日でも早く県内に普及できるよう安定生産技術の確立に取り組むとともに、更なる品種開発も着々と進めているところです。

また、当場の研究成果については、研究員が現地において技術面のサポートを行う「技術支援プログラム」を引き続き実施し、新品種・新技術の迅速な普及定着と技術改善へのフィードバックを図っていきます。さらに、研究セミナー等によって農業者や関係者の方々へ直接研究成果の提供を行うとともに、農業試験場公開デーやホームページの充実を通じて開かれた農業試験場を目指します。

本号では、これまで農業試験場が開発した品種や技術等を振り返る特集号としましたが、改めて農業試験場の責務を痛感いたしました。これからも124年の歴史と伝統を受け継ぎながらも常にチャレンジし、農業者や消費者の目線で試験研究に取り組んでまいりますので、引き続き御支援をお願いいたします。

も く じ

いちごの50年間生産量日本一を支えた品種・技術	・・・ 1
水稲の収量・品質向上に貢献した技術・品種	・・・ 6
ビール大麦生産量日本一を支える品種	・・・ 9
トマトの多収化に貢献した栽培技術の開発	・・・ 14
花き・果樹生産に貢献した栽培技術の開発	・・・ 17
放射性物質吸収抑制対策への取組	・・・ 21
栃木農試で開発した優れた品種	・・・ 23
栃木農試これまでのあゆみ	・・・ 25